点訳フォーラムＱ＆Ａ

2021年４月～2022年３月版

第５章　書き方の形式

その１　本文の書き方

１．p147　１．行替え・行移し

年少向けの絵本の点訳について、原本に
「そうか！
げんかんから
はいれば　いいんだ」
ブル　くんは、
いそいで　いえの　なかへ
はいっていきました。

このように、１文が６行にわたって書かれている場合、点訳も原文通りに６行にするべきでしょうか。その場合、２行目からは行頭一マス目から書いていいでしょうか。

【Ａ】

絵本の場合は、原本では絵とのバランスなどで、１文でも短く行を替えて書いてあったりしますが、点字では、できるだけ自然な行移し、行替えを行います。
その場合、原本の絵本と行の配置が異なっても、特に断る必要はありません。

■■「ソーカ！■■ゲンカンカラ■ハイレバ■イインダ」
■■プル■クンワ、■イソイデ■イエノ■ナカエ■ハイッテ■
イキマシタ。
となります。

２．p148　２．行末の扱い　【備考】

Ｑ＆Ａコーナーの質問で、文中注記符のみが次ページになるのはお勧めできないとありました。ページが変わらず次行についても　やはり同じと考えてよろしいでしょうか。自動改行に任せた方が良いでしょうか。

【Ａ】

数字付きの文中注記符の前で行移しできるようになったのは、「てびき４版」からで、それ以前はできませんでした。

これが可能になったのは、一つの語に複数の文中注記符が付くことも多くあり、行の半分以上もあいてしまう場合があるからです。

ですから、文中注記符の前で行移しをするのは一つの語に複数の文中注記符が付いて、極端に行末があいてしまう場合などに限った方がよいと思います。

次ページに移るのは、さらに避けた方がよいと思います。

３．p149　４．挿入文の書き方

地の文より下がって書かれている文です。

①興味が起こらない、おもしろくない。

（例）この小説はつまらない。

つまらない映画で、眠くなった。

３行目は、文頭も下げて、前の文に揃えてあります。

この段落の前後は一行あけてありますので、①興味が～　は３マス目から書くとすると、２、３行目はどのように書いたらいいでしょうか。

【A】

３行は、１行目が「つまらない」の語義、２行目と３行目はその用例のようです。

墨字では、視覚的なレイアウトで書かれていますが、点訳では上記のことが分かるように書きます。書き方の例としては、

■■（１）■キョーミガ■オコラナイ

■■（レイ）

■■コノ■ショーセツワ■ツマラナイ。

■■ツマラナイ■エイガデ

または、

■■（１）■キョーミガ■オコラナイ

■■（レイ）■コノ■ショーセツワ■ツマラナイ。■■ツマラナイ■エイガデ、■ネムク■ナッタ。

などが考えられます。（例）は用例であることが分かっていますので、下の書き方でも十分に文意は通じると思います。

４．p149　４．挿入文の書き方

インデントの使い方がよくわかりません。

本文中で明らかに文体が下がっているところに、インデントをつけると理解していましたが、それが、1行の場合でも付けるのか？インデントをつける、明確な目安を教えてください。

【A】

インデントは、「てびき」の規則で定めるものではなく、点字編集システム（BES

・BESX）の便利な機能のひとつです。

引用文などで全体に行頭を下げて点訳するときにインデントを用いると、自動的に文字を下げるので、毎行改行マークを入れる必要がなく、校正などで、行移しの位置がずれてもレイアウトが崩れることがないという便利さがあります。

まず、引用文をどのように点訳するかを先に検討し、引用文全体を二マス下げて点訳すると決定したときに、インデントを用いることになります。

点訳して点字で１行だけの場合は、インデントの便利さはないと思いますし、二マス下げたこと自体が不明確だと思いますので、前後１行あけるなどの処理が必要になってくるかもしれません。

原文で引用文全体が下げて書いてあっても、前後１行あけで処理する場合もありますので、その処理方法によって、インデントを使用するかどうかが決まってきます。

点訳フォーラム「点訳に関する質問にお答えします」の該当箇所にも他から引用された文の書き方に関連した質問がありますので、参考になさってください。

５．p149　４．挿入文の書き方

挿入文がいくつかあり、行頭二マスインデント処理をし、挿入文の前後は１行あけにしようと思います。ですがなかに見出しのすぐ後に挿入文という章があります。その場合も挿入文の前（つまり見出しの次の行）を1行あけにしてもいいのでしょうか。

【Ａ】

見出しの次の行は、行あけしないルールになっていますので、見出しの直後に行頭二マス下げて書きだし、挿入文が終わったところで、１行あけにすることになります。

１行あいていて、行頭の二マス下げがなくなれば、本文に戻ったことが分かります。

６．p149　４．挿入文の書き方

この規則に「なお、挿入文の始まりと終わりが、カギや棒線などで区別されている場合は、原文の通りに書く。」とあります。

「原文のとおりに」は、カギ、棒線のみを指しているのでしょうか。または、レイアウトをそのままに書くということでしょうか。

例えば、本文に戻った時に区別するために１行入れたりしますが、そのことが不要ということを指しているのでしょうか。

【Ａ】

原文に前後の行あけがなければ原文のまま書いてもよいと思います。

挿入文の書き方の原則は、「本文との区別を明らかにする」ことですので、原文が前

後の行あけなしでカギや棒線で区別されている場合は、原文の通りに書いて差し支えありません。

ただ、カギを閉じた後に出典が書いてあるなど、レイアウト上読みにくくなる場合は、【処理】の「原文と異なっても前や後ろを行あけするなどの工夫をして書くことができる」に従って、１行あけることもできます。

７．p152　５．箇条書き

本文中に、行頭に中点や、丸を付けて箇条書きになっている箇所が何か所かあります。個別の項目を、分かりやすくするために、行頭に番号付けをすることは可能でしょうか。

【Ａ】

一般的には、「てびき」p104　⑤やp152　５．に従って、行頭の中点や丸は省略して、箇条書きの文だけを段落を付けて書きますが、それでは数が多くてわかりにくい、箇条の中に段落があるなどの理由があれば、点訳挿入符で、《各箇条に１．２．･･･の番号を付ける。》などと断って番号を付加する場合があります。

なお、原文によっては、もともと原文に付いている番号と区別するために、ａ．ｂ．･･･にするなど、工夫が必要な場合もあります。

８．p152　６．二マスあけ

１．『小泉武夫　食のベストエッセイ集』という書名があるのですが、小泉武夫の後は一マスあけでしょうか、二マスあけでしょうか。原本では「小泉武夫」と「食のベストエッセイ集」の間にはスペースがあります。このような書名は数多くあると思いますが、原本でスペースがある場合どのように考えればよいのでしょうか。国会図書館書誌情報では一続きになっています。書名のマスあけの基準のようなものはありますか。

２．「しょうがくしんこくご　二年・下」「こくご　二・下」の「二」の前のマスあけはどうすればよいでしょうか。

【Ａ】

１．原本でスペースがあるかどうかは、点字でのマスあけに直接関係しません。また、国立国会図書館やＴＲＣの書誌では書名の中には原則としてスペースを入れないルールになっています。スペースを入れるのはアルファベットで表す書名や一つの書誌に複数の書名がある場合など特殊な場合のみです。ですから、書誌によって点字でのマスあけを判断することもできません。

あくまでも、書名の中に二マスあけの要素があるかどうかで判断します。「てびき」p152「6. 二マスあけ」に照らして判断することになります。

『小泉武夫　食のベストエッセイ集』は、「小泉武夫」と「食のベストエッセイ集」

という別の要素が羅列してあるので、(2)　①に当てはまります。二マスあけがよいと思います。

２.「しょうがくしんこくご」「こくご」などの同じ書名で１年～６年がある場合は、二マスあけてよいと思います。ただ、数学Ⅱ、数学Ａなどは、ⅡやＡも含めて書名とも考えられます。

９．p152　６．二マスあけ

女はやさしさを、①自分②ペット③子供に向けるために使っている。

ここは、数字の後は語句ですが、文章の個所もあります。語句や文章と数字の間は一マスあけか二マスあけかどちらでしょうか。

【Ａ】

①～　②～　③～のように番号を付けて羅列してある場合は、語句であっても数字の前を二マスあけます。

（１）■ジブン■■（２）■ペット■■（３）■コドモニ■ムケル

となります。

10. p152　６．二マスあけ

シリーズ番号などの数字の前の分かち書きについて質問します。

日本■文学■全集■■１

心理学■１

数字を受ける言葉に分かち書きが生じた場合には二マスあけ、分かち書きがない場合は一マスあけと理解していましたがこれでよいでしょうか。

【Ａ】

ご質問の場合は、数字を受ける言葉の分かち書きによるのではなく、シリーズ名（叢書名）とシリーズ番号（叢書番号）の数字は、異なった要素なので二マスあけるという判断によります。

シリーズ名に続けて一マスあけで裸数字が並ぶと、一連のシリーズ名と誤解される恐れがあるというのがその理由です。

書名の「心理学■１」は、判断が難しいところですが、「心理学１」までを書名と考えることが多いようです。「数学ⅡＢ」「化学Ⅰ」等も全体で書名として一マスあけにしています。

前の語句と裸数字の間のマスあけも、「てびき」p152「6. 二マスあけ」(2)の特に①に当てはまるかどうかで判断することになります。

またシリーズ名の書き方などは、「てびき」の例にもあるように、ほとんど定まった書き方になっています。

11. p152　６．二マスあけ　(2)

参考文献は、原本によって書き方が異なり、マスあけに迷います。下記のような例はどう考えればよいでしょうか。

1.『広辞苑　第七版』新村出編／岩波書店

2.『よみがえる大王墓　今城塚古墳（シリーズ「遺跡を学ぶ」077)』(森田克行著　新泉社)

3.『『死者の書』の謎　―　折口信夫とその時代』(鈴木貞美著　作品社)

4.『対話古典シリーズ　万葉集下』(桜井満訳注　旺文社)

5. 川和二十六、富田商太（画）『戦国時代100のウソ』鉄人社

6. 篠田達明『戦国武将の死生観』新潮社

【A】

参考文献の場合、書名（文献名)、著者（筆者)、出版社（発行元)、発行年などは、「書き流しで異なった要素が羅列されている」場合に相当しますので、「てびき」p152 (2) ①に従い、各要素の間は二マスあけになります。

ただ、書名などがカギ類で囲まれている場合は、記号によって判断が付きますので一マスあけでもよいとしています。

要素の間にスラッシュがある場合は、スラッシュを省略して二マスあけにします。また、書名の後に、著者名、発行所名などがカッコで囲まれている場合は、前の書名等の注釈的説明と考え、前に続けて書きます。

これらのことを考慮して判断すると以下のようになります。

１.『広辞苑■第七版』■■新村■出■編■■岩波■書店

２.『よみがえる■大王墓■■今城塚■古墳（シリーズ■「遺跡を■学ぶ」■077)』(森田■克行■著■■新泉社)

３.『『死者の■書』の■謎■―■折口■信夫と■その■時代』(鈴木■貞美■著■■作品社)

４.『対話■古典■シリーズ■■万葉集■下』(桜井■満■訳注■■旺文社)

５. 川和■二十六、■富田■商太（画）■■『戦国時代■100の■ウソ』■■鉄人社

６. 篠田■達明■■『戦国■武将の■死生観』■■新潮社

なお、１．５．６．の『～』の前後は一マスあけでもよい例になります。

１．２．４．の第七版、０７７、下などの版次やシリーズ番号などは、標題紙などでは二マスあけの場合もありますが、このように書き流しで羅列してある場合は、誤解の心配がなければ一マスあけでよいと思います。

『～』の中の『～』は、この場合は第２カギになります。

12. p152　６．ニマスあけ

前のＱ＆Ａに追加の質問です。

１．『今城塚と三島古墳群―摂津・淀川北岸の真の継体陵（日本の遺跡７）』

２．『別冊太陽　楽しい古墳案内（太陽の地図帖２３）』

３．「高槻市立今城塚古代歴史館　常設展示図録（改訂版）」

４．『てくてく歩きⅡ　南紀　熊野　伊勢』

上記の１．～３．のカッコの前は続けていいでしょうか。以前の回答は、

『よみがえる大王墓　今城塚古墳（シリーズ「遺跡を学ぶ」077）

『よみがえる■大王墓■■今城塚■古墳(シリーズ■「遺跡を■学ぶ」■077』でした。

４．は、地名の間は一マスでもいいでしょうか。

【Ａ】

参考文献として本文の中にカギ類で囲まれて出てくるときや、大きな見出しの終わりや巻末などに多くの文献が列挙されているときの書き方についてのご質問と思います。

そのような場合、書名の後に、著者名、発行所名などがカッコで囲まれて書かれているときは、前の書名等の注釈的説明と考え、前に続けて書くのがよいと思います。

ただ、（改訂版）（新版）（上）（下）などの版次は、版次という異なる要素が書名に含まれると考えて、３．の（改訂版）の前は一マスあけたほうがよいと思います。

１．２．のカッコは前に続けて書きます。

１．『今城塚と■三島■古墳群■－－■摂津・■淀川■北岸の■真の■継体陵（日本の■遺跡■■７）』

２．『別冊■太陽■■楽しい■古墳■案内（太陽の■地図帖■■２３）』

３．「高槻■市立■今城塚■古代■歴史館■■常設■展示■図録■（改訂版）」

なお、標題紙や奥付に書く場合は、そのルールに従って書きます。

４．は、『てくてく■歩き■Ⅱ■■南紀■熊野■伊勢』と書いてよいと思います。

『てくてく歩きⅡ　南紀白浜　熊野古道　伊勢街道』などとマスあけを含む語の羅列の場合は二マスあけになります。

『てくてく■歩き■Ⅱ■■南紀■白浜■■熊野■古道■■伊勢■街道』

13. p152　６．ニマスあけ

国木田独歩の『病床録』の中の詩です。本文中に挿入されています。

－　土用七月の波、これを犬吠埼に見る　この壮観　未だ忘るる能わず　河を見ても　天地の悠久を知る　斯の水　斯の人　何の時か　亦相会わんや　利根の

大流に　潸然として涙をそそぎしことありき　－

文の切れ目と思われる箇所で二マス開けをしてもよいのでしょうか。

【A】

詩の中でも二マスあけに相当するところは二マスあけて点訳することになります。

「てびき」p165～p166の「学生時代」のなかにも二マスあけがありますので、参照してください。

ご質問の詩の場合、二マスあけは以下の４箇所ではないかと思います。

－　土用七月の波、これを犬吠埼に見る■■この壮観　未だ忘るる能わず■■河を　見ても　天地の悠久を知る■■斯の水　斯の人　何の時か　亦相会わんや■■利根　の大流に　潸然として涙をそそぎしことありき　－

その２　見出しの書き方

１．p154　１．見出しの書き出し位置

見出しの大きさが1種類の場合は、見出しを7マス目から書き始めることを原則とするとありますが、見出しの種類が2種類の場合は、書き出し位置の決まりはありますか。また、見出しの種類が3種類の場合、「はじめに」、「あとがき」、「著者紹介」などは一番大きな見出しに合わせるのでしょうか。

【A】

見出しの書き出し位置は、７マス目から書き出す見出しを基本と考え、それより小さい見出しは５マス目から、それより大きな見出しは９マス目から書き出します。

その本の中で、基本的な見出しを７マス目からとし、(1)(2)の番号が付いていたり、行頭から本文と同じ文字の大きさで書いてあったりする場合は５マス目からでいいと思いますし、原本でページが替えてあったり、１頁に見出しだけが書いてあったり、第〇章などの語が付いている場合は９マス目から書く見出しにするなどと判断します。

「はじめに」「あとがき」「著者紹介」などは、その本の中の最も大きい見出しにあわせるのが一般的です。

２．p154　１．見出しの書き出し位置

原本で1番目の大見出しには、その下に中見出しと、小見出しがあるので、それぞれ、９，７，５マス目書き出しとしました。

次の大見出しには、中見出しがなく、小見出しと同じ形式の見出しのみとなっています。

このようなときは、９，５マス目書き出しとするべきでしょうか。それとも、９，７マス目書き出しとするのでしょうか。

【A】

原本の中で、大見出し、中見出し、小見出しの書き方が定まっているのでしたら、９マス目の次に５マス目見出しもあると思います。

「てびき」の場合も、２章・３章と１章・４章・５章では見出しの段階の数が異なりますが、見出しの大きさによって、行頭のマスあけを揃えています。

３．p154　1．見出しの書き出し位置

①７マス目からの見出し　②５マス目からの見出し　③「５マス目からの見出し」④小見出し、としたとき、③と④の間にある見出しはどうしたらよいでしょうか。

例えば、「３マス目からの見出し」というのはありませんか。

【A】

３マス目から始まる見出しは、小見出し符を付けた見出しになります。点字では、そのほかに３マス目から始まる見出しはありません。

以下にいくつか考えられる方法を書いてみます。

１．最も大きい見出しを９マス目からにする方法があります。

２．この原本の見出しに、第１章、第１節、１．２．などの言葉や番号が付いていれば、「てびき」p155　(3)から、複数段階に７マス目見出しを用いることができます。例えば　①７マス目から、第１章～、②７マス目から、第１節～、③７マス目から　１．～　④５マス目から　(1)～、⑤小見出し　などとできます。

３．番号などが付いていない場合、７マス目からの見出しにもカギ類などを用いる方法もあります。

４．あまりお勧めではありませんが、第１小見出し符を用いた見出しの下に、第２小見出し符を用いることもできます。

なお、「てびき第３版Ｑ＆Ａ第２集」Q116では、見出しの段階を示す数字などがない場合の工夫として、《行頭のあけ幅が同じでも、より大きい見出しにカギ類を付ける、より小さい見出しを棒線で囲む、またはカッコ類で囲むなどの方法》があることを示しています。

最も大きい見出しを９マス目からにするのが、もっとも望ましい方法で、それ以上必要な場合は、そのほかの方法も考えてみてください。

４．p155　２．見出しの段階を示す文字や数字

見出しの段階を示す文字が英単語の場合、外国語引用符で囲まれた語と続く語の

間のマスあけはどうなりますか。

①CHAPTER１　概説

②LESSON１　英単語に…

③DAY１　チーズと豆腐の…

①は章、②は課の意味があり、③は1ヵ月の1日目、2日目と料理名が並んでいます。この場合外国語引用符とそれに続く語との切れ続きは英単語の意味で変わるのでしょうか。それとも閉じ記号の後はいつも分かち書きの規則に従うので、一マスあけになるのでしょうか。

【A】

これらは、見出しの段階を表す文字や数字にあてはまりますので、原則として後ろを二マスあけることになりますが、外国語引用符で囲まれている場合は、区切り目が明らかであり、誤読の恐れがないので、一マスあけでよいと思います。

ただ、第１節や第１章などと同様、二マスあけにしても間違いではありません。

どちらにしても、１タイトルの中では、統一するようにしてください。

引大大CHAPTER■数１引■概説

引大大LESSON■数１引■英単語に…

引大大DAY■数１引■チーズと…

のようになります。

５．p155　２．見出しの段階を示す文字や数字

見出しが＜～＞で囲まれて書かれています。見出しの＜～＞をはずして点訳するというような説明を見た記憶があります。原本に＜～＞を使って書かれているならば原本通り点訳してよいでしょうか。また、この時は第２カギでいいでしょうか。

１．＜基本的な問い方＞

・言葉の意味を明確にする

○○とは何か？

２．どんな疑問がありうるか、例を出しておこう。

＜子供＞

どうして好き嫌いしちゃダメなの？学校に行きたくない時～　（以下略）

＜中高生・大学生＞

将来なにしたらいい？なんで働かなきゃいけないの？～（以下略）

＜社会人＞

どうして～（以下略）

１．は５マス目からの見出しです。また、２．はそれよりも小さい扱いになっています。

【A】

原文で、視覚的な強調の意味で見出しが囲み記号などで囲んであった場合、点訳では行頭のマスあけで見出しであることが分かるので、一般的に省略して書くことをお勧めしています。このＱ＆Ａでも、見出しが【～】で囲まれている例を示しています。
ですから、１．は、＜～＞を省略して書いてよいと思います。
２．の例ですが、＜～＞で囲んであっても、すぐに、第２カギを用いるとは考えずに、５マス目からの見出しの下の見出しですので、第１小見出し符を用いることも考えられると思います。
第２カギを用いて間違いであると強くいうことはできませんが、小さい見出しにカギ類を用いることは、あまりしませんし、かといって、【備考】などとは性質が異なるので、この場合はカッコ類も適当ではないと思います。第１小見出し符がよいのではないかと考えます。

６．p157　３．副見出し

日記形式の本を点訳しています。原本にはページの左上に小さく日付、時間が書いてあり、次の行に見出しがあります。日付と時間は見出しを書いた次行に右よりに書くのでしょうか。それとも、文章の最後に書くのでしょうか。

【Ａ】

点訳する場合は、まず見出しを書き、次に日付と時間を書くのがよいと思います。日付と時間の書き方は、いくつか考えられます。

１．見出しを７マス目から、日付と時間を５マス目から書く
２．見出しの次行に３マス目からカッコで囲んで日付・時間を書く
３．見出しのあと、二マスあけるか、棒線でつないで日付と時間を書く
４．見出しの次行に行末に揃えて日付と時間を書く

３．の場合、日付と時間は副見出しの扱いとして、目次には見出しだけを書いてよいと思います。
４．の場合、○ガツ■○ニチ■○ジ■○フンと書くと、行末に揃えても行頭のあけ幅が少なくなってしまいますので、点訳書凡例で断って、日付、時間を略記するのがよいかもしれません。
他の見出しとの関係で、１．の方法が取れない場合もあると思いますので、原本全体のレイアウトを考慮して、１．～４．のどの方法にするか判断してください。

７．p159　６．出典表示

短篇集のタイトルや解説など、見出しと同じ行に著者名が記載されている場合、著者名はどのように入れますか。所属する団体では、「記載位置は原文に従う」とあるので、見出しから二マスあけて著者名を入れるという意見と、二マスあけで入れ

ると副見出しとられかねないので、次行の行末に入れるという意見に分かれています。各団体で決めてよいのでしょうか。

【A】

短編集などで、見出し（タイトル）と著者名が同じ行に書いてある場合、墨字ではおそらく同じ行の行末に書かれているのではないかと思います。

その場合、見出しから二マスあけて著者名を入れても、次行の行末に入れてもどちらも間違いではありません。

しかし、著者・作者を同じ行に二マスあけでいれるのは、俳句・川柳のように短く１行に収まる場合や、出典表示のようにタイトル・作者名が幾つも並んでいる場合が多く、短編小説のタイトルと著者で次に本文が始まるような場合は、次行の行末に書くのが一般には収まりがよいのではないかと思います。

ただ、「論語　孔子」「羅生門　芥川龍之介」のようにタイトルと著者が対等に並ぶようなイメージの作品であれば、同じ行に二マスあけで書くこともあると思います。

施設・団体で固定的に決めるのではなく、一般にはこうするが、作品や文脈によっては考慮するのように考え方を決めておかれるのがよいと思います。

８．p160　「コラム31」

出典の書き方について

①「てびき」の出典の解説（p159）では「著者や出典を表す語句の記載位置は原文に従うが、見出しや引用文、あるいは本文との区別を明らかにするために書き出し位置に配慮する」とあります。

本によっては左寄せになっていたり、中央部分に記載されていることもあります。ですが、やはり解説のように見出しや引用文・本文と明確に区別するために、行末（10マス目以降）から書き始めるのが望ましく、出典文章がすごく長い場合や、本に出てくる出典の数の多さなどがネックになる場合は書き出し位置を上げる（７マス目・５マス目・３マス目など）ことも許容される…という解釈でよいでしょうか。

②１タイトルの中で、行末によせて書いても行数がかさばらないものと、３マス目から書かないと行数がかさんでしまうものが混在していることがあります。その場合でも書き方の統一はしなくてもよいでしょうか。右寄せ書き出しと３マス目書き出しの出典が混在しても問題ないでしょうか。

③出典表示でよく「〇〇データより作成」という語句のものに出くわします。行頭に「出典」や「参考資料」などとは書かれていませんが、そんな場合でも、表示が長く行数がかさばる時は３マス目から書くことも許容されますか？

【A】

①　出典の書き方については、「コラム31」にまとめてありますが、行頭10マス以

上あけて書くことを原則とします。３～４行程度になっても、この原則通りにするのがよいと思います。特殊な本で５行以上になるような出典が数多くある場合は、出典であることが分かるような工夫をして、３マス目から書き、次行は行頭一マス目から書いたり、５マス目から書き、次行は７マス目から書くような方法も考えられます。出典であることが分かる工夫には、原本にはなくても全体を第１カッコで囲む、あるいは、最初に（出典）（資料）などと入れることが考えられます。

このように工夫をする場合は、７マス目や９マス目などの中途半端な位置ではなく、３マス目、５マス目くらいから書いた方が、見出しとの誤解が少ないと思います。

②　出典の書き方は、できるだけ１タイトルで揃えた方がよいと思いますが、枠囲みの中の表や図の出典と、本文の出典の書き方が異なることなどはよくあります。ただ、原本の中で、すべて同じように出典が書いてあるのであれば、原文通りに同じように行末に揃えて書くのがよいと思います。

③のご質問についても、出典と同じ扱いでよいと思います。原文で行を替えないで句点の後に同じ行に書かれていることもありますが、そのような場合は原文通りでよいと思います。

その３　詩歌・戯曲などの書き方

１．p160　１．詩　(2)

初めて詩の点訳をしています。「てびき」の(1)(2)の説明と例２、例３の関係がよく分かりません。行や連による書き出し位置の変化や、１行が点字で２行以上になる場合の処理について、例２と例３の違いを教えてください。例２と例３のどちらの書き方にするのかを決めるのに何か決まりがあるのでしょうか？また、詩が２行では書ききれず３行になる場合はどのように処理するのでしょうか？

【Ａ】

詩の例について

例１　書き出し位置に差がない、常に３マス目から書き出す詩です。この場合、詩の１行が点字で１行に入らない場合は、次行は行頭一マス目から書きます。一般の文の書き方と同じです。

例２　書き出し位置に差がある詩の書き方です。この例では、書き出し位置が下がっているときに、点字では４マス下げて、７マス目から書いています。そして、

それと区別するために、１行が点字で１行に入らない場合は二マス下げる書き方をしています。３マス目から書く行が１行に入らない場合は、次行５マス目から書き、７マス目から書く行が１行に入らない場合は、さらに二マス下げて９マス目から書いています。

例３　書き出し位置に差がある詩ですが、例２と異なり、１行が点字で１行に入らない場合は二マス上げる書き方をしています。書き出し位置が下がっているときには点字では４マス下げて、７マス目から書くのは、例２と同じです。この書き方の場合は、３マス目から書く行が１行に入らなければ、次行行頭一マス目から、７マス目から書く行が１行に入らなければ、次行は５マス目から書きます。

詩の１行が点字で２行にも入らず３行以上になる場合は、２行目と同じ位置から書き始めます。２行目が９マス目から書き始めていれば、３行目も９マス目から書きます。２行目が５マス目から書き始めていれば、３行目も５マス目から書き始めます。

書き出し位置に差がある詩を点訳する場合は、「てびき」では、例２または例３で書くことをお勧めしています。このどちらの書き方でも構いません。
例２と例３でどちらがお勧めと言うことはありませんが、詩の１行が点字で３行になるよりは２行に入った方が読みやすいので、詩の１行が長い場合は、例３のほうがよいと思います。

２．p169　３．戯曲・対談などの書き方

対談に使われているアルファベットについてお尋ねします。

A. ファウルズが・・・・。

0.　彼が・・・。

というように、対談者の名前がアルファベットで表されており、アルファベットの後にピリオドがあります。

このピリオドは省略してもよいでしょうか。それとも省略せずA.■■ファウルズが・・・。と書くべきでしょうか。

【A】

アルファベットの後のピリオドは、後ろ一マスあけとなりますので、このままでは、対談としては読みにくいものになります。

次のいずれかの方法をとるのがよいと思います。

１．発言者の後に、第１小見出し符か第２小見出し符を用いる。この場合、ピリオドを付けたままでも、ピリオドを省略してもどちらでも構いません。

２．ピリオドを省略して、Ａ、Ｏのあと二マスあけて、第１カギで発言内容を囲む。
二マスあけただけで発言内容を書くのは、わかりにくいので、第１カギを用いた方がよいと思います。
原文のピリオドは、Ａさん、Ｏさんを表すのに、便宜的に付けたとも、イニシャルを表しているとも解釈できますが、「てびき」p48　５．により、省略しても差し支えありません。

３．p172　４．手紙文や公用文の書き方

「指導者ハンドブック第５章編」p31にある「公用文の書き方」です。
「中山市福祉会館利用登録団体各位」の点訳の仕方を回答例で確認しました。
■■ナカヤマシ■フクシ■カイカン■リヨー■トーロク改行
■■■■ダンタイ■カクイ
このように2行に書かれていますが、２行目をこのように書く理由が分かりません。
【Ａ】
手紙や公用文で、一つの宛名や差出人が２行以上にわたる場合は、見出しの書き方に準じて、１行目より二マス下げて２行目以降を書きます。
公用文などの場合は、宛先の次に差出人を行末近くに揃えて書きますので、相手に対する敬意を表す意味でも、相手をできるだけ行の前の方の位置に収めることが必要になります。
相手が複数の場合は、各相手の書き出しを揃えて、数行に分けて書きます。
また施設名と役職名（～センター　所長～様）を書くときなどは、役職名から次行に移し、行頭を上の行と揃える場合もあります。

その４　表や図の書き方

１．p174　１．表の書き方　(2)

点訳挿入符を用いて点訳上の処理事項を書く際、点訳挿入符内で小見出し符を使用することは可能でしょうか。
【Ａ】
小見出し符は、３マス目から書き始める見出しに付ける記号ですから、小見出し符の記号そのものを点訳挿入符の中に用いることはできません。
点訳挿入符の中では、表現を工夫して、《揚げ物の種類を小見出しとし、温度、時間の順に記す。》のように書くなどすればよいと思います。

２．p186　「コラム33」

集合写真の説明を入れるとき、原本に「左から二人目・・」という説明が書かれている場合は、原文通りで構わないでしょうか。

【A】

このことについて特にルールはありません。

本文を読む上で写真での位置関係がわからないと困るような場合は、原文通りに入れますが、なくても特に困らない場合は、省略しても構いません。

名前の後ろに（右）（中）（左）（後列右端）などとあったり、（左から順に）などは、点字では省略してよいと思います。

ただ、前後のキャプションとつながっていて省きにくい場合(省くと文の収まりが悪くなるなど）もありますので、そのときには、原文通りに書く場合もあります。

３．p188　３．区切り線・枠線　(2)

イラスト入りの図を入れる場合ですが一つの囲みの枠の開きと閉じが何頁くらいまで離れて大丈夫でしょうか。３ページ以上になる場合は、枠を取った方がよいのでしょうか。読みづらくないのか気になります。

【A】

一つの枠で囲む範囲の長さについて、とくに基準は示していません。

ただ、枠線は開きと閉じがありますので、線を引くだけや１行あけをするよりは、ずっと検索性に優れ、始まりと終わりが明確に分かります。数ページに及んでも、「この枠線の終わりはここだ」ということはすぐに分かりますので、３ページ程度で枠線を外して行あけなどに変えてしまうと、逆に、判別しにくくなると思います。

枠線は、本文の流れを中断するような表や図、囲み記事などを囲むものですので、表がまとめて書いてあったり、長い資料が続くような場合は、ページ替えをする位置やその巻の巻末にまとめて入れるなどの工夫をする方がよいと思います。

４．p189　「コラム34」

４人の作家による短編集です。ひとつの物語が終わるごとに、その作家の近況や解説などが書かれています。

本文は縦書きですが、この部分は横書きになっていてページを替えて書かれています。原本で１ページ分あります。点字では１～２ページくらいです。はっきりした枠線で囲まれているわけではありませんが、枠の中に入っていて４人とも同じ形式で書かれています。解説やコラムと言った見出しのようなものはなく、文章の最後に作家名があります。このような場合どの様に書くのがよいのでしょうか。

(1)ページ替えをして書く。

(2)段落挿入符を使う。

(3)枠線を使う。

(4)注記や写真の説明の時使用する仕切り線を使う。

もし枠線を使ってよいのなら、本文に続けてもよいのでしょうか。それとも１行あけた方がよいのでしょうか。

また仕切り線は、注記や写真説明・挿絵以外にも使用してよいのでしょうか。

【A】

各作家の作品の最後に付いているのですから、ページ替えではない方がよいと思います。段落挿入符も、一般に、本文の前に要約や前文などを入れるときに使用されるものですので、この場合はあまり適していないと思います。

(3)（4）どちらでも良いと思いますが、枠線は段落と段落の間に入れて、始まりと終わりを明らかにしたいときに適していますので、この場合には、(4）が適していると思います。

枠線を用いる場合は、本文に続けて構いませんし、１行あけても間違いではありませんが、最後の枠を閉じる線も必ず入れる必要がありますので、その辺も考えた方がよいと思います。

仕切りのための線は、本文との仕切りのために付ける線ですので、写真説明、挿絵、注記以外にも用いることができます。

そして１行あけ、またはページ替えして次の作品に移るのがよいと思います。

５．p189　「コラム34」

仕切りのための線が17行目に来た時、見出しが18行目になります。仕切り線は本文との区別のためですので、そのまま見出しを点訳して良いのでしょうか。迷います。

【A】

仕切りのための線は、本文と次の見出しの間に、写真説明や注記などをはさんで、次の見出しに行くときに用いる線ですので、そのページの最下行にきても、次ページの１行目に書いてもよいのです。

しかし、見出しは、そのページの最下行に書くことはできません。見出しの書き方は、「てびき」ｐ154　(3)や【処理１】に従って書きます。

見出しがそのページの最下行に来るときは、次ページに移します。

ご質問の場合は、17行目に仕切りのための線を書き、見出しは次ページの冒頭行に書きます。

その５　ルビやマークなどの書き方

１．p191　1. ルビの付いた言葉の書き方　(1)

『身近なぎもん６年生』という本です。

原本には漢字・アルファベットに全てルビがあります。LEDとかAI・ATMといった言葉にはアルファベットを書き、その後カッコの中に読み方を記しました。その後同じ言葉が出てきたときはアルファベットだけにしました。

血液型とかビタミンといったアルファベット１文字の場合もＡ（エー）といったように、初めて出てきた時は読み方を記した方がよいでしょうか。小学校高学年向けの書籍ではそこまでする必要はなく、アルファベットだけでよいでしょうか。もし１文字でも読み方を書くとするなら、血液型やビタミンなど項目が違った時は、改めて読み方を記した方が良いでしょうか。

【Ａ】

最近、いろいろな方に配慮して総ルビを付けた本もよく見るようになりましたが、点訳するときにそのすべてに対応すると読みにくいことも考えられます。

「６年生」という本ですから、すでにアルファベットを学んでいるはずですので、１文字のアルファベットにまで読みを書かなくてもよいと思います。

ＬＥＤ、ＡＩなどになると、読み方を書くことも意味があると思います。

２．p191　１．ルビの付いた言葉の書き方

川柳に一般的と思われるルビが振ってある場合、ルビのみを書くべきかどうか、迷っています。

夢に見る　若かりしころの　かの女（ひと）を

スーパー楽し　あれこれ　かごに　娘（こ）にらむ

それぞれ　女に（ひと)、娘に（こ）とルビがあります。

一般的な文章であればルビだけでよいように思いますが、川柳や歌、歌詞などの場合でも同じと考えてよいでしょうか。

川柳なのでリズムも関係しそうですし、できればルビのみで書きたい気がします。

【Ａ】

短歌・俳句・川柳などは、音数によるリズムが大切な短詩ですので、まずは、ルビだけを書くことをお勧めします。

ほとんどは、それだけでよいと思いますが、漢字の説明が必要な場合は、１句、１首を書き終わった後に、点訳挿入符で、「コワ■ムスメ」などのように書くなどの工夫をして、鑑賞を妨げないようにするのがよいと思います。

３．p191　１．ルビの付いた言葉の書き方　(2)

難読名字で「一尺五寸」に「かまつか」、「八月一日」に「はっさく」、「八十八騎」に「とどろき」とルビがついています。その場合、それぞれルビを先に点訳して括弧内に漢字を書くと思いますが、「一尺五寸」「八月一日」などは、数字を用いるのでしょうか、仮名でしょうか。

「とどろき」の場合、「騎」の説明を点訳挿入符で「キシノ■キ」と入れると、第１カッコの閉じ記号の中に点訳挿入符の閉じ記号が重なり、②③⑤⑥の点が３つ重なってしまいます。「てびき」p133に第１カッコの閉じ記号の後ろに点訳挿入符が重なる場合とその反対の例はあるのですが、中にある場合がなかったので、同様に考えて一マスあけるのか、中の場合は続けていいのか教えてください。

【A】

難読名字に関する原本で、この漢字の説明が必要な場合は、

カマツカ（数１シャク■数５スン）

ハッサク（数８ガツ■ツイタチ）

トドロキ（数８８キ）

と書きますが、前後の文脈で、名字の由来などが説明してあれば、漢字の説明は必要ありません。

「キ」が「騎」であることを説明しなければならない場合は、一度カッコを閉じた後、一マスあけて、点訳挿入符で説明することになります。

トドロキ（数８８キ）■点挿キバタイノ■「キ」点挿

なお、「キシノ■キ」は、「棋士」「騎士」など漢字が特定しにくいので、「騎馬隊」や「騎馬武者」のように特定しやすい例を用いるとよいと思います。

４．ｐ191　１．ルビの付いた言葉の書き方　(2)　(3)

ルビの書き方について、(2) か (3) かで迷います。

①「GP」に「グランプリ」のルビ

②「GP」に「grandprix」のルビ

③「GP」に「ジーピー」のルビ

④「グランプリ」に「GP」のルビ

⑤「グランプリ」に「grandprix」のルビ

⑥「grandprix」に「グランプリ」のルビ

⑦「grandprix」に「GP」のルビ

とあった場合、ルビを先に書くのかどうかは、どのように考えればよいでしょうか。また、「てびき」p192の１行目の【処理】は、ｐ191の(2)の場合のみ適用されるのでしょうか。

【A】

「ルビを振る」（ふりがな）の本来の目的は、読者が読めないかもしれない漢字や原語の読み方（発音）を知らせる、またはこの漢字はこう読んでほしいという著者の意図を伝えることです。ですから、原文の文脈でどう読む（発音する）のが適切かを判断し、それを先に書くのがよいと思います。

仮名や略記に原語が付いている場合は、それはほとんどの場合、本来の「ふりがな」の目的ではなくて、言葉の説明ですので、「てびき」p192の(3)にあたると思います。

ご質問の①～⑦について考えてみますと

①③⑥は、「てびき」ｐ191(2)に当たると思いますので、

① グランプリ（GP）

③ ジーピー（GP）

⑥ グランプリ（grandprix）

②⑤は、「てびき」p192(3)に当たりますので

② GP（grandprix）

⑤ グランプリ（grandprix）

と書くのがよいと思います。

④は、その原本で、「GP」と読ませたいのか、「グランプリ」と読ませたいのかによって判断が異なるように思います。「GP」は「グランプリの略語である」との説明であれば(3)に当てはまると思いますし、これ以降「グランプリのことをGPと書く」というような趣旨であれば、(2) に当てはまるように思います。

⑦は、「grandprix」に「GP」のルビがあることをどう解釈するかですが、「grand prix」の略称が「GP」であることの説明であれば、(3)にあてはまると考えられます。

原本の文脈や、原本全体の語の表し方（カナが多いか原語が多いかなど）によっても、判断が異なってくる場合があると思いますので、ルビの目的を考慮しながら書くことになります。

以上のことから、p192の上の【処理】は (2) だけの処理になります。

５．p193 「コラム35」

萩原朔太郎の詩の中に、珈琲店に「かふえ」とルビがふってあります。この場合、カフェとしてもよいのでしょうか。このころの詩では、促音が小さく書いてないものが多いので、故意に「え」が大きいのかどうか悩んでいます。

また、同じ詩の中に、「ふおうく」という言葉も出てきますが、そのまま書くべきでしょうか。それとも「ふぉーく」と直してよいのでしょうか。

【A】

「かふえ」は「カフェ」と点訳してよいと思います。

「てびき」p193「コラム35」にあるように、ルビには小文字を用いない書き方が多く見られますので、点字では、現代の基本的な仮名遣いに従って書きます。

「ふおうく」は、ルビではないので、「てびき」p25の「外来語・外国語の書き方」に準じて書くことになります。「ふお」は「フオ」と原文のまま書きますが、「う」は、ひらがなで書かれているため長音を用いていないとも考えられます。点字での読みを考慮して、「フオーク」と書くのがよいと思います。

６．p194　２．マーク類の書き方　【処理２】

文章や言葉に続けて、ｗ　があります。

「〇〇〇ｗ」、〇〇〇ｗｗｗ

〇〇〇(それ草生えるな)　などです。

ネット上の表現で　笑い、ワラ　と読むらしいです。

また、(それ草生えるな)はすごく笑える時、Ｗ　がたくさんつながると草が生えてるように見えるところから、きているようです。こんな表現の点訳はどうしたらいいか教えてください。

【A】

SNSなどで、笑　を示す記号として　ｗ　は一般的になっていると思いますので、特に、注記など必要ないと思います。

一マスあけて（句点があれば二マスあけて）外ｗ　と書いてよいと思います。

記号としては、小文字、全角のｗ　のようですので、小文字がよいと思います。

「～ナンテ■外ｗ」

「～ナンテ■外ｗｗｗ」

「～ナンテ■（ソレ■クサ■ハエルナ)」

となります。

７．p194　２．マーク類の書き方　【処理２】

＜DV顔だと思う人グッドボタン↓↓↓＞

コメントの書き込み欄に書かれたものです。

この下向き矢印をどう表現すればよいか悩んでいます。

意味としては、下にあるグッドボタン（いいね）を押してねということかと思いますので、「グッド■ボタン■押して■押して■押して」といった感じでカナ書きにするのがよいのかなと考えますが、そうすると、原本で下向き矢印で書かれていることがわからず、それでいいのかなという迷いが生じます。

文末のマークと考え、「グッド■ボタン■（押して■押して■押して)」と書いた

方がよいでしょうか。
　点訳挿入符で（(下向き矢印３つ)）などの説明を入れると野暮ったく感じますし、物語・文章のテンポも崩れてしまうように感じます。
　　【A】
　このような記号が、ここ１カ所でしたら、点訳挿入符で処理をするのが最も確実な方法だと思います。
　「グッド■ボタン 点挿 押してほしいことを表す下矢印が３個 点挿」
　１例として、このような書き方ではどうでしょうか。
　ほかにもこのような記号が出てくる場合は、原本全体の雰囲気に合わせて、それぞれの記号の読みを決めて、点訳書凡例で断って使用するのもよいと思います。
　下矢印は「オシ」で「下矢印３個は、数３＝オシ」
などになると思います。

８．p194　２．マーク類の書き方　【処理２】
　SNSのやりとりの中の　〉〉　という記号について
　原文は
　184：真っ暗：06/16 23:06:13
　でも、みんなそうなんじゃない？
　そうじゃない死に方って、どんなの？
　〉〉168
　アドバイス、ありがとうございます
　嫌味じゃないです
　教えてもらって感謝してます

　この文章の前に、168で投稿があり、それに対する　〉〉　です。
　〉〉　は、「RE」のことだと思います。
　「Re：」は「～ついて」で返信メールの件名の前に自動的に付けられる記号で、読み方に決まりはなく、あえて読むとしたら、「リ」や「リー」、または「レ」や「レー」と読まれているとのことですが、無視してしまうと、文意がわからなくなると思います。
点訳書凡例で
　SNS等で「～について」の意味で使われている大なりの記号（RE:　の意味）は、
　②⑥　②⑥　で表しました。
のようにしてみましたが、特に注意をひくものではないのに第２星印を使ってよいのか疑問があります。アドレス囲み符号で囲んで、情報処理のようにしたほうがいいでしょうか。他に　〉〉　を表す方法はないでしょうか。

【A】

SNS・メールなど用語では、Reply(返信）といわれる記号のようで、responseと微妙にニュアンスが異なるようですが語源は同じのようです。

メールの件名に付く「Re:」や、相手の文面の引用の行頭全てに付く 〉などと意味は同じようです。今回のご質問には 〉が二つ重なっています。

これらの処理方法ですが

１．メールの件名にある場合、

２．文が引用されて、全ての行に 〉が付いている場合、

３．文中に 〉〉168 のように、書く場合

では、書き方が自ずと異なってきますし、〉〉だけでなく、＠を書くものもあるようです。

１．は、外字符　大文字符Re　または、外字符　二重大文字符　RE　でその後二マスあけて、件名を書いてよいと思います。二マスあけ以外に棒線もあるかもしれません。

２．この場合は点訳挿入符で　《以下、〇〇のメールの引用》のように断るのがよいと思います。

３．点訳書凡例で断って、(外大Re)　　(外re)　などと、第１カッコで囲んで入れてはどうかと思います。

〉〉　以外の記号の場合も使うことができますし、分かりやすいように思います。第２星印などの記号類を用いると、いくら凡例で断ってもその記号本来の用法とは異なりますので読んでいて違和感があると思います。

９．p195　２．マーク類の書き方　【処理３】

登場人物が歌っているときの書き方を教えてください。

「♪たーてのいとはあーなたーよーこの・・・」

「(オンプ■マーク）■

「(オンプ■マーク）■■

と、マスあけを迷っています。

他に、オンプマークと書く以外の点訳方法がありますか。

【A】

歌詞を示したり、登場人物が歌っていることを表す、文頭のオンプマークや庵記号は、省略するのが一般的です。

ほとんどの場合、前後の文脈や、リズムに合わせて長音が使われていたりするので、マークがあることを書かなくても、歌詞であることが分かります。

p195【処理３】にあるのは、句読符の代わりに用いられているハートや音符マークを言っています。

10. p195　３．数の略記

数の略記についての質問です。「営業時間９時～24時」と「営業時間９:00～21:30 年中無休」と同じ文の中に出てきます。この場合、略記で書かず、９時から21時30分と分かりやすく点訳するのでしょうか、それとも原本に従って点訳するのでしょうか。また、略記を使った場合は必ず点訳書凡例を書くものでしょうか。

【Ａ】

「てびき」は一般書を「サピエ図書館」にアップすることを基準として規則や処理を述べています。プライベートサービスや広報、読者を限定した点訳書などについては、読まれる方の希望などを考慮して決めていただいて構いません。

「サピエ」の読者には、点字の規則に精通した方、読み慣れた方もおられますが、略記や英語などを読むのに不慣れな方も多くおられますので、略記を用いたら、点訳書凡例または点訳挿入符で断る規則になっています。

一般書では、「数９ジ～数２１ジ■数３０プン」のように書くのがよいと思います。「9：00～21：30」と書かれていることが、文脈上必要だったり、何度も出てくる場合は、点訳書凡例などで断って略記を用います。

11. p195　３．数の略記

小学3年生の算数の教科書で、ストップウォッチが示す数字をどのように点訳すればいいのか悩んでいます。

10秒00を示すのに、0:1000と10秒の後に小さい00があります。数0②⑤1000　になるのでしょうか。このように書くと1000秒と思われないでしょうか。ストップウォッチを見て何秒か答える問題です。

【Ａ】

0：01　のようなデジタル表示の場合は、デジタル時計の説明をする要領で、「ストップウォッチで10秒は、数００②⑤１０のように表します。２分５秒は、数０２②⑤０５となります」のように説明をしてから、「てびき」p195の「数の略記」にある、10：40の書き方で点訳をしてはどうでしょうか。

10秒より短い時間の表示がある場合は、「ストップウォッチでは秒より短い時間も計ることができます。秒より短い時間は小さい数字で書かれていますが、点字では次のように表します。

１０秒　＝　数００②⑤１０②⑤００

２分５秒　＝　数０２②⑤０５②⑤００」

のように説明します。

または、先生や親御さんと相談できるのでしたら、小学３年生なので小さな数字の部分は省略して点訳するなどの工夫をしてもよいと思います。

12. p195　３．数の略記

黒く四角いプラスチックの上部に赤いデジタルの『88:88』という表示点滅した。

この部分の点訳に迷っています。

「数８■数８■コロン」などと表記して、わかるものだろうかと思案しています。

【A】

「88：88」という表示は、種々のデジタル表示画面で、正常な表示ができない場合や準備ができていないときなどに見かけます。時間表示に限ったことではないのですが、「数88②⑤88」（②⑤の点の後ろに数符を付けない）の表記が最も自然な書き方だと思います。

この場合、「てびき」p195　第５章　その５　「３．数の略記」のところで、点訳書凡例などで断るようにという注意がありますので、この箇所ではなく、点訳書凡例で、

数８８②⑤８８は、数８８■コロン■数８８と書かれていることを表します。

などと断ればよいと思います。本文の該当箇所に書くと長くなって文の流れを断ち切ってしまいそうに思います。

13. p196　「コラム36」

推理小説で、実在する人物名のルビや漢字が明らかに間違っています。

『アイヌの神謡集』を翻訳した「知里幸恵（ゆきえ)」が、ルビは（さちえ）

アイヌの歌人、「違星（いぼし）北斗」を「達星（たつぼし）北斗」、また、地名で実在する与論島の「大金久（おおがねく）海岸」が（おおかねく)、正しくは「与論町役場」ですが、原本は「与論島町役場」などです。

推理小説では、架空の人名や地名もありますが、実在する場合（確認済）は誤植と考えて訂正してもいいのでしょうか。訂正してよいのであれば、点訳書凡例で断る必要がありますか。

【A】

小説とはいえ、実在の人物をそのまま登場させていて、ルビを間違えているのは気になります。

ただ、無断で修正しないで、施設・団体の長から、施設・団体として出版社に問い合わせるのがよいと思います。

その場合、具体的に、ルビと正しい読みの両方を書き、このように点訳してよいかを問い合わせます。往復はがき、または返信用の封筒（宛先を記入し、返信用の切手を貼って）を同封します。

ほとんど返信をいただけると思いますが、もし返信がなかった場合も、点訳書凡例で断って、修正して点訳してよいと思います。

ですが、もし、出版社からの確認がなかった場合は、修正は人名や地名など確実な箇所だけに止めた方がよいと思います。

その６　本文以外の割り付け

１．p197　１．巻数のまとめ方

１巻のページ数は表題紙や奥付など含めて100～160ページが標準ですが、どうしても160ページを超える場合、何ページまで許容できますか。１行あけの部分で分冊すると162ページで表題紙、目次、奥付までいれると全体で168ページになるのですが。

【Ａ】

「てびき」では読みやすいページ数という意味で、第３版から記載されていることですので、自施設・団体内でだけ使用する点訳書であれば、それぞれの施設・団体の事情に合わせて考えればよいと思いますが、「サピエ図書館」にデータを登録する場合は、異なります。

「サピエ図書館」のデータは、全国の施設・団体が印刷・製本して、利用される方に貸し出すことを前提にして製作することになっています。

現在は、多くの施設・団体が70～80枚を綴じることができるバインダーを使用しています。80枚がバインダーに綴じてページをめくることができる限界で、60枚～70枚がそのバインダーで読みやすい枚数です。75枚くらいまでに押さえてほしいという希望も出ています。

ですから、サピエ図書館に登録するデータは、標題紙・奥付も含めて、最大160ページに止めるよう工夫してください。

２．ｐ198　２．ページの付け方　【処理】

ページ付けについて質問です。「てびき」p198に「パソコン点訳では、偶数ページが空白になる場合もページを入れる。」とありますが、目次の裏面はどうでしょうか。自動でページは付かないので手動で「モクジ」「モク数１」など入れますが目次が１枚の時、「モク３」で終わった時などに裏面にも入れる必要がありますか。
また、奥付の前のページが空白の時も入れるのでしょうか。データ利用されるのにあった方がいいのでしょうか。

【Ａ】

目次の偶数ページもページ付けをすることをお勧めしています。「モク３」で目次が終わっても「モク４」のページ付けも入れます。

なお、目次が１枚の場合は、ページ付けをしても省略してもどちらでもよいこと

になっていますので、省略する場合は、その裏ページも空白になります。
奥付の前の偶数ページにもページ付けをします。奇数ページにページが付いていれば、その裏のページにも必ずページを付けます。

３．p198　３．標題紙

標題紙について。書名と副書名があって、副書名は前後を棒線で囲むと「てびき」に載っています。副書名の中に棒線が使われている場合でも、前後に棒線を使うのでしょうか。また、奥付の書名蘭では、前だけに棒線を使うと、副書名の中の棒線が後ろの棒線と勘違いされないでしょうか。

【Ａ】

標題紙で、副書名を囲む②⑤　②⑤の線は、棒線と形は同じですが、いわばレイアウト上のもので、書名の下に、この線で囲まれていれば副書名と分かりますので、副書名の中に棒線があっても、誤読の恐れはないと思います。
奥付の場合は、初見であれば確かに読んでいて迷うところだと思いますが、標題紙等で、書名・副書名を理解した上でのことですので、奥付のルール通りに書いて差し支えないと思います。

４．p198　３．標題紙

書名の後に続く、上・下等の　３．標題紙マスあけについて確認です。
「点訳フォーラム」のＱ＆Ａで、書名との間は二マスあけすること、また（上）（下）とカッコがあれば、一マスあけとなることは、理解できました。
現在、校正している『盤上の向日葵』の原本には、上・下にカッコがついているので一マスあけと思いますが、「サピエ」の書誌詳細欄にはカッコがついておりません。
こういう場合は、原本どおりでいいのか、サピエにあわせないといけないのか、迷っております。なお、サピエ登録はＴＲＣのデータをコピーして登録しています。

【Ａ】

原本を点訳するのですから、原本通りとします。
サピエの書誌入力規則では、原本にカッコがあっても、カッコを入力しないことになっています。ですからサピエの書誌には、上・下などにカッコは付いていません。

５．p198　３．標題紙

製本に関する質問です。
表紙などの点が潰れないように、全体を「コタコタ･･･」と打ったもので挟むと聞いたことがあります。もしそうするなら、コタコタを両面に打ちますか。片面だけ

にし、打った方を内側にして挟みますか。

【A】

点字用紙の下の方が大きく空白になったときに、下に２～３行コタコタといれることが、以前行われていました。

点字プリンターではなく、亜鉛板で製版して、印刷機で打ち出すときに、保護点として、あるいは亜鉛版のズレを防ぐために行われていました。

現在もその習慣が残っている施設もありますが、点字プリンターで印刷する際には、この点は必要ありません。

６．p201　４．目次　(5)

長編の後に短編が収録された小説を点訳しているのですが、分冊の際の（ツヅキ）の入れ方についてお聞きします。

長編の題名は書名と同じで、その下に章が６つ、さらに各章の下に数字の見出しが有ります。

点訳書では長編と短編の見出しを９マス目からの見出し、章を７マス目からの見出し、数字の見出しを５マス目からの見出しに取りました。

その上で、６巻に分冊しましたが、１巻から４巻までは、９マス目からの見出しの章ごとに分冊、５巻と６巻だけ５マス目からの見出しで分冊し、短編は６巻の終章の後に９マス目からの見出しで入れました。

この場合、章ごとに分冊した１～４巻までは、（ツヅキ）は不要でしょうか。

【A】

第２巻から第４巻も、点訳挿入符で囲んだ　ツヅキ　は必要です。ツヅキが必要ないのは、最も大きい見出しで分冊した場合だけになります。

２巻から６巻の目次の最初と、本文１ページの最初は、９マス目からの見出しで始まることになります。

７．p201　４．目次　【処理１】

短編集の目次に、各短編が

題名・・・ページ数

次行に作者名

と書かれています。

本文には題名だけです。

この場合原本通りに目次にのみ作者名を入れるだけでいいでしょうか。また、目次の短編の３作品には〇〇賞受賞と題名の後に書かれています。これも目次に入れるだけでいいのでしょうか。

【Ａ】

一般に点訳書の目次は、点訳書の本文の見出し部分を記載することになっていますので、目次には、本文の見出しのみを記すのがよいと思います。

そして、ページを改めて、全巻内容の紹介という形で、原本の目次に記されていることを点訳すれば親切ではないかと思います。

点訳書第１巻の目次に、第１巻の見出しとページ数を書き、第１巻の見出しが終われば、ページを改めて、「全巻の内容」のような見出しをたてます。

一例として、「全巻の内容」を７マス目から書き、

５マス目から、ダイ数１カン

次行３マス目から、第１巻に入れた短編のタイトル、著者名、〇〇賞受賞を入れます。２行以上になる場合は２行目以降は行移しして、行頭一マス目から書き続けます。ページ数は入れません。

「第１巻」などの小見出しは、巻数の多いときに入れれば親切だと思いますが、全３巻、４巻程度の本でしたら、巻数は入れなくてもよいと思います。

全巻内容の紹介の例としては、『「サピエ図書館」登録点字文書製作基準』(http://www.naiiv.net/sapie/?2019121111からダウンロードできます)【例２】11～13ページがあります。少し内容は異なりますが、参考になさってください。

８．p203　５．まえがき・序文・凡例・あとがき・解説など　(1)

「それぞれページや用紙を改めて書く」とありますが、「それぞれ」とは、どれが「ページを改める」で、どれが「用紙を改める」ということでしょうか。

ページを改める＝偶数ページからの書き出しでもＯＫ

用紙を改める＝奇数ページからの書き出し

との理解でよいでしょうか。

また、本文がＦｉｎ．として終わった後に、特別書き下ろし番外編、あとがきと続きますが、これは「ページを改める」のでしょうか、「用紙を改める」のでしょうか。

【Ａ】

「用紙を改める」は印刷したときに、用紙が替る所ですから

ページを改める＝偶数ページからの書き出しでもＯＫ

用紙を改める＝奇数ページからの書き出し

は、正しいご理解です。

そのうえで、用紙を改めるのは

１．標題紙から目次に移るとき

２．目次から下がり数字のページ付けに移るとき

３．下がり数字のページ付けから、本文１ページに移るとき

４．奥付に移るとき
だけになります。下がり数字のページ付けがない場合は、目次から本文に移るときに用紙替えになります。
それ以外は、「ページを改める」ことになります。
点訳書凡例、献辞、まえがき、序文などを下がり数字のページ付けで書く場合は、それぞれの間はページを改めて書きます。
また、本文の後に、あとがき、解説、著者紹介などが来る場合も、それぞれページを改めて書きます。
ご質問の本文の後に、特別書き下ろしがある場合も、本文と通しページにして、ページを改めて書きます。

９．p203　５．まえがき・序文・凡例・あとがき・解説など

「表紙カバー」について記載されていませんので質問します。
１．表紙カバーはまえがきや献辞などの前に書きますか？
２．「帯」がついているときはどうですか？
３．これらすべて頁替えして下がり数字をつけていいですか？
４．１ページ目は必ず本文になりますか？
【A】
「表紙カバー」や「帯」は、点字図書館に蔵書したり、サピエ図書館に登録したりする図書の標準的な装丁としては、点訳することが想定されていません。
ですので、「てびき」の「本文以外の割り付け」にも掲載されていません。
プライベートな依頼やその施設・団体の方針として、表紙カバーや帯まで点訳する場合は、各施設・団体で記載位置を決めてよいと思いますが、図書の通常の記載順序を乱さないような位置に入れる必要があると思います。
標題紙、目次、点訳書凡例、献辞、まえがきなど、本文、あとがき・解説など、参考文献、著者紹介、奥付の流れのうち、
第１巻のまえがきの前か、最終巻の著者紹介の前などが考えられます。
第１巻に入れる場合は、下がり数字のページ付けで、最終巻に入れる場合は、本文と続きのページを付けます。
原則として、ページ付けの１ページは本文の開始位置になりますが、まえがきなどが本文の内容と連続性が強い場合は、まえがきから１ページとする場合もあります。
補足ですが、点字図書館の蔵書やサピエに登録する図書の場合は、長い期間にわたって利用されますので、「表紙カバー」や「帯」のように、ある一定の短い期間でデザインや内容が変わったり、使用されなくなったりするものは、点訳書の奥付の版次や刷とも内容が異なってくるということもあり、点訳する項目に入っていない

のだと思います。

10. p203　５．まえがき・序文・凡例・あとがき・解説など

献辞に「献辞」という言葉がなくても見出しとして「献辞」と書いた方がいいでしょうか。その場合、一番大きい見出しに揃えるのでよいでしょうか。

「献辞」と書かず原本の言葉のみを書く場合の書き出し位置はどうなりますか。

【Ａ】

原本に「献辞」と見出しがなければ、点訳でも見出しは書かなくてよいとお答えしています。原本の言葉のみを１行目の３マス目から書きます。ただ、その言葉が「母へ」などと非常に短い場合、そのページの１行目は空白にして、２行目に書くと言うこともできると思いますが、１行以上の行あけはお勧めしていませんので、３行目以降から書くことは避けた方がよいと思います。

11. p203　５．まえがき・序文・凡例・あとがき・解説など

原本の最後に出版社の「出版図書の紹介」が掲載してあり、書名、著者名、定価、ページ数、内容(見出し)、ISBN等が５ページ分載せてあります。
このような出版図書の紹介も点訳した方がよいのでしょうか。

【Ａ】

出版社のＰＲですので、基本的には、必要ありません。プライベートサービスで依頼者からその部分も点訳するよう希望があった場合や施設・団体の方針で点訳するように取り決めてある場合は、施設・団体の方針に従ってください。

12. p203　５．まえがき・序文・凡例・あとがき・解説など

原本の目次の最後に、

この本は‥‥を大幅に加筆修正したものです。

本文中は敬称略。・・・・を使用しています。

という文言があります。

この文言は、第１巻の目次を書いた後１行あけて書いてもよいのでしょうか。それとも最終巻の本文の後に書かなくてはいけないのでしょうか。

【Ａ】

このような項目は墨字の本でも、書かれている位置が定まっていませんので、第１巻に入れるか、最終巻にするかは、原本に準じて書くのがよいと思います。

ご質問の原本の場合は、本文の前に書かれているので、第１巻に入れてよいと思います。

点訳書の目次には、目次の項目だけを書きますので、目次の次（点訳書凡例があればその次）に、ページを替えて、下がり数字のページを入れて、書くのがよいと

思います。下がり数字のページの項目が続く場合はページを替えて入れ、本文に入る所では用紙を替えて書きます。

13. ｐ206　７．欄外見出し　【処理】

原本ページの記入には決まりがあるのでしょうか。「表記法」などに、一部例があるだけで詳しいことがありませんので書き方がありましたら教えてください。

【Ａ】

原本ページの書き方は、「表記法」「てびき」では、欄外見出しの書き方のところに説明があるだけで、それ以上のルールはありません。

ページ行の余白を利用することになっていますが、検索のしやすさから、ページ行の行頭に書くことが多いようです。「てびき」p206の【処理】も参考にしてください。

「てびき」p207「９．点訳書凡例」⑨にあるように、点訳書凡例で、原本ページを付けたことをその位置も含めて断ります。